

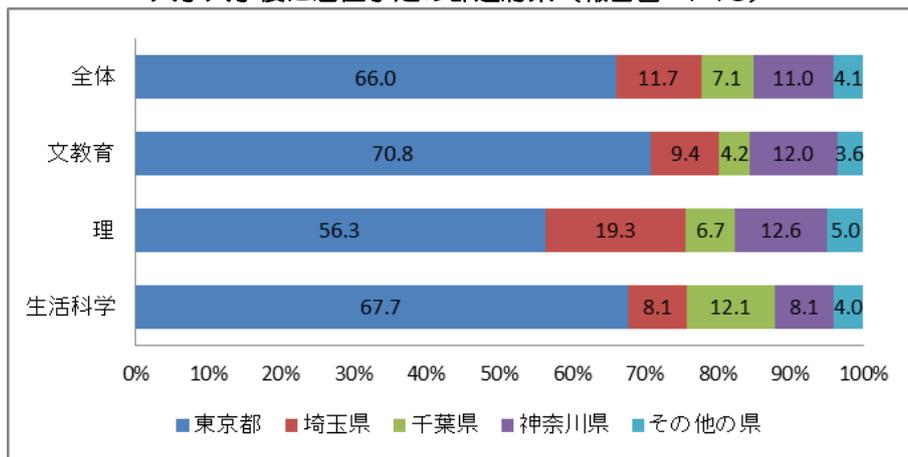
平成26年度「新入生の生活に関する調査」

第2回 「お茶の水女子大学に入学後の学生生活」

1. 都内を中心に、「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学

本学の新生は、どこから本学に通学する予定なのでしょう。

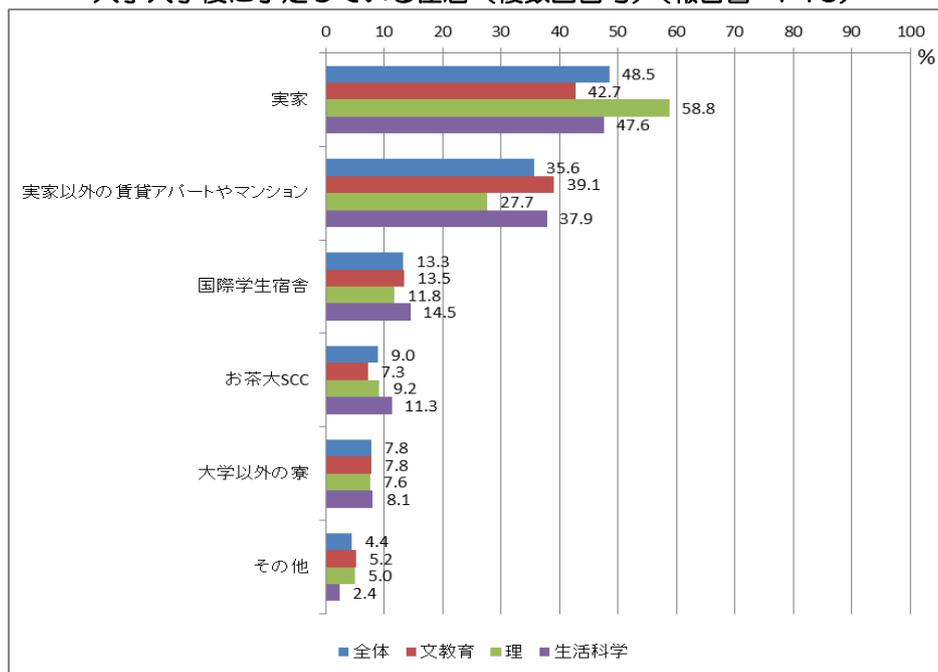
大学入学後に居住予定の都道府県（報告書 P15）



全体で見ると、昨年度同様、「東京都」が66.0%と最も高く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」がそれに続いています。理学部では、他学部より「東京都」が10ポイント以上も低く、「埼玉県」が10ポイント程度高い結果も示されています。

では、大学入学後にはどのような住居を予定しているのでしょうか。

大学入学後に予定している住居（複数回答可）（報告書 P16）



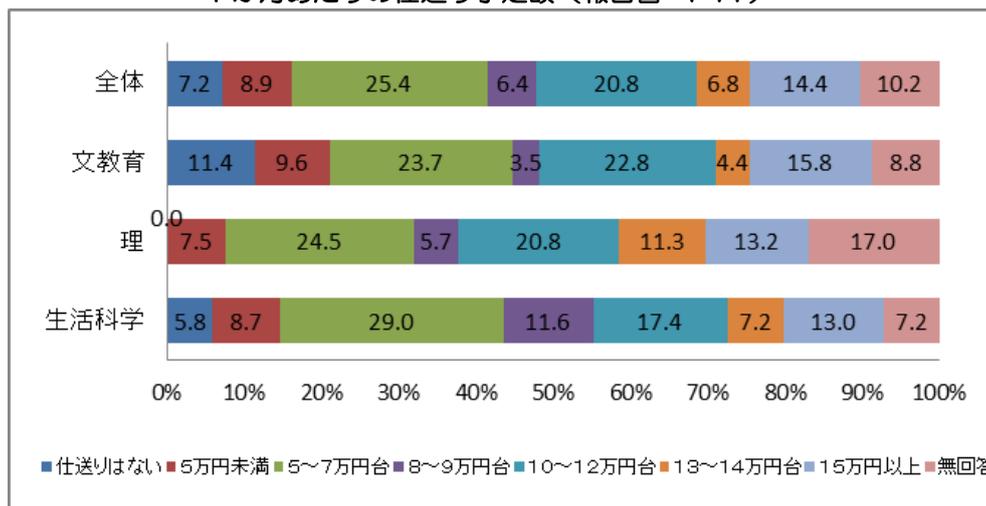
全体で見ると、「実家」が48.5%と約半数を占めており、昨年度同様、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」や「お茶大 SCC」といった本学の学生寮がそれに続いています。

理学部では、「実家」の割合が他学部より10ポイント以上高い結果も示されています。

2. アパートやマンションの家賃は「毎月5～9万円台」がおよそ85%

では、本学の新生、特に「実家」以外からの通学を予定している人は、どの程度の金額の仕送りを受け、そのうちのどの程度の金額を家賃として予定しているのでしょうか。

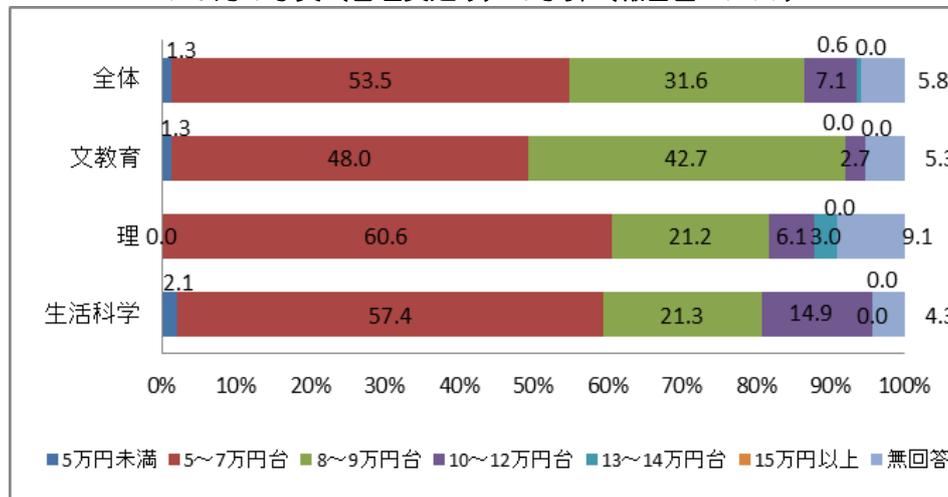
1 か月あたりの仕送り予定額（報告書 P17）



1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の人に尋ねたところ、全体で見ると「5～7万円」が25.4%と最も高く、昨年度同様、「10～12万円」がそれに続いています。「5万円未満」も少なからずみられ、「仕送りはない」も全体の7.2%を占めています。

さらに、1か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねたところ、昨年度同様、「5～7万円」の割合が最も高く、「8～9万円」がそれに続いており、両者を合わせるとおよそ85%の学生が1か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかります。

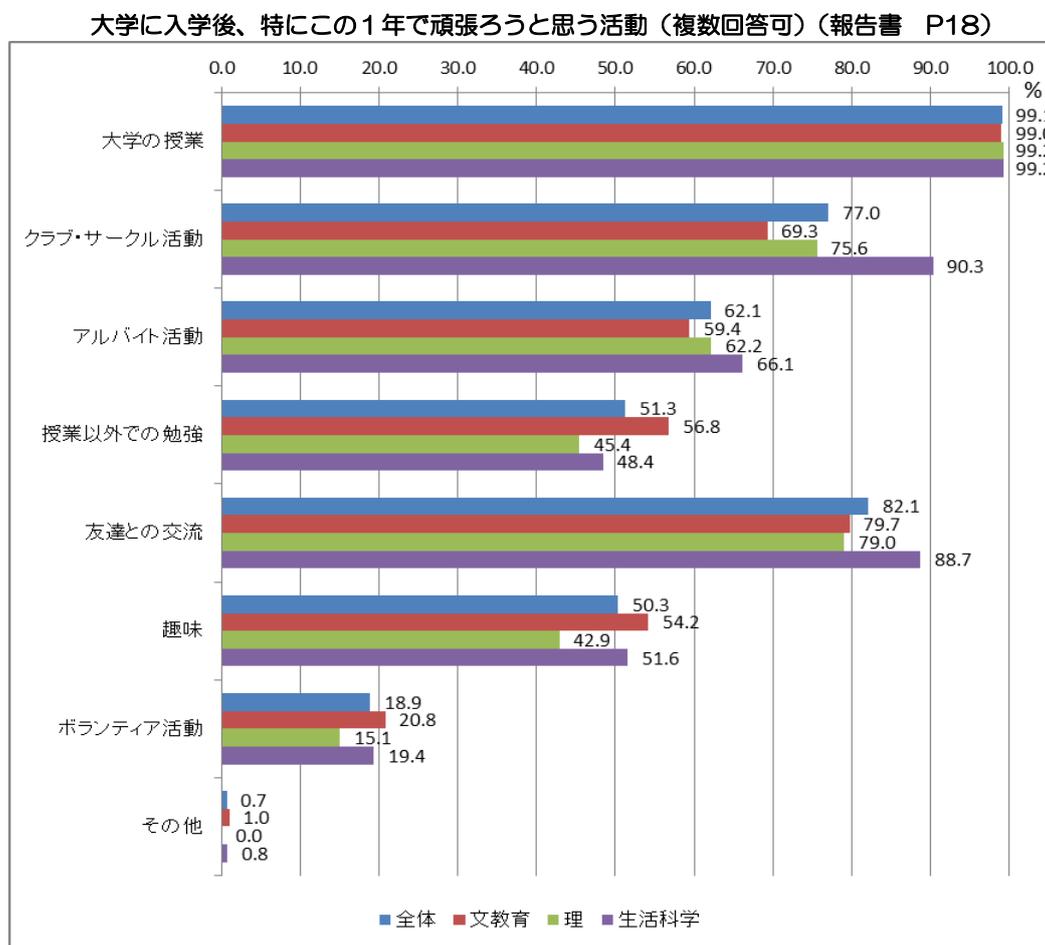
1か月の家賃（管理費込み）の予算（報告書 P17）



3. この1年で頑張りたいのは、

「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」

では、本学の新入生は、大学に入学後、特にこの1年でどのような活動を頑張ろうと思っているのでしょうか。



大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねたところ、「大学の授業」が全体の99.1%で最も高く、学部による差もみられませんでした。

それに続いて、「友達との交流」「クラブ・サークル活動」の割合が全体の7割を超えています。生活科学部ではそれぞれおよそ9割に及んでおり、他学部に比べて明らかに高い結果を示しています。

4. 新入生は「授業や単位」「人間関係」「就職や将来」が、

保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」が不安

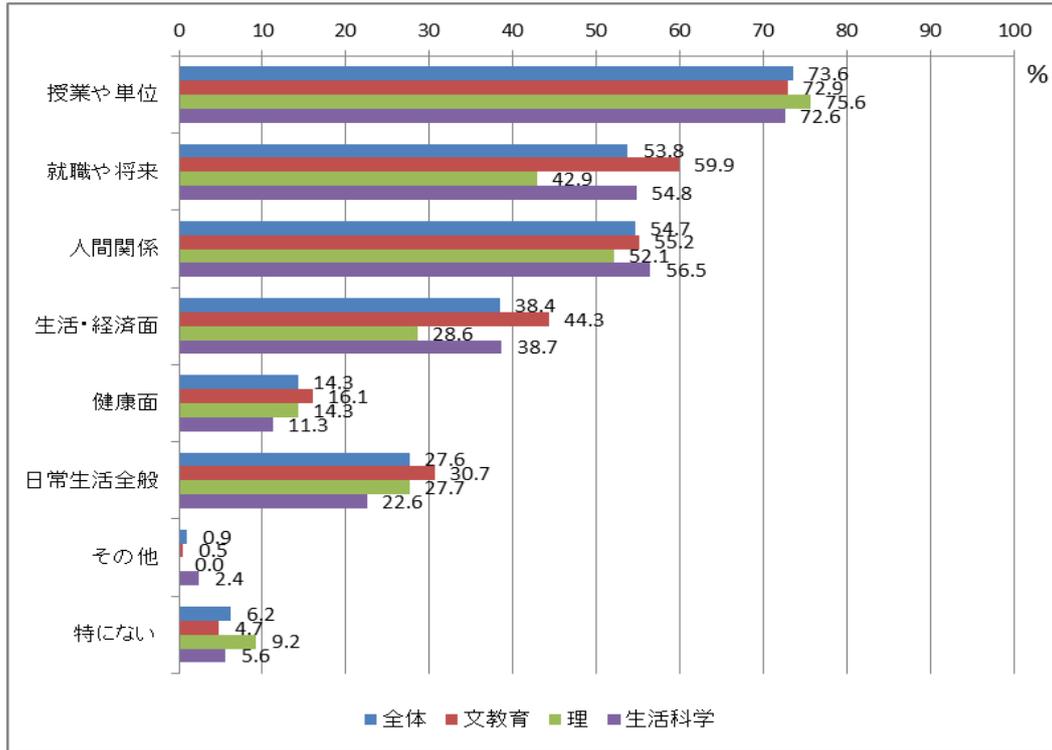
では、本学の新入生やその保護者は、大学入学後の学生生活に対してどのような不安を抱えているのでしょうか。

まずは、新入生自身の回答結果をみていきましょう。

「授業や単位」が全体の73.6%と最も高く、「人間関係」「就職や将来」がそれに続き5割を超えています。昨年度の「就職や将来」の割合は6割を超えており、「人間関係」がそれに続く結果でした。

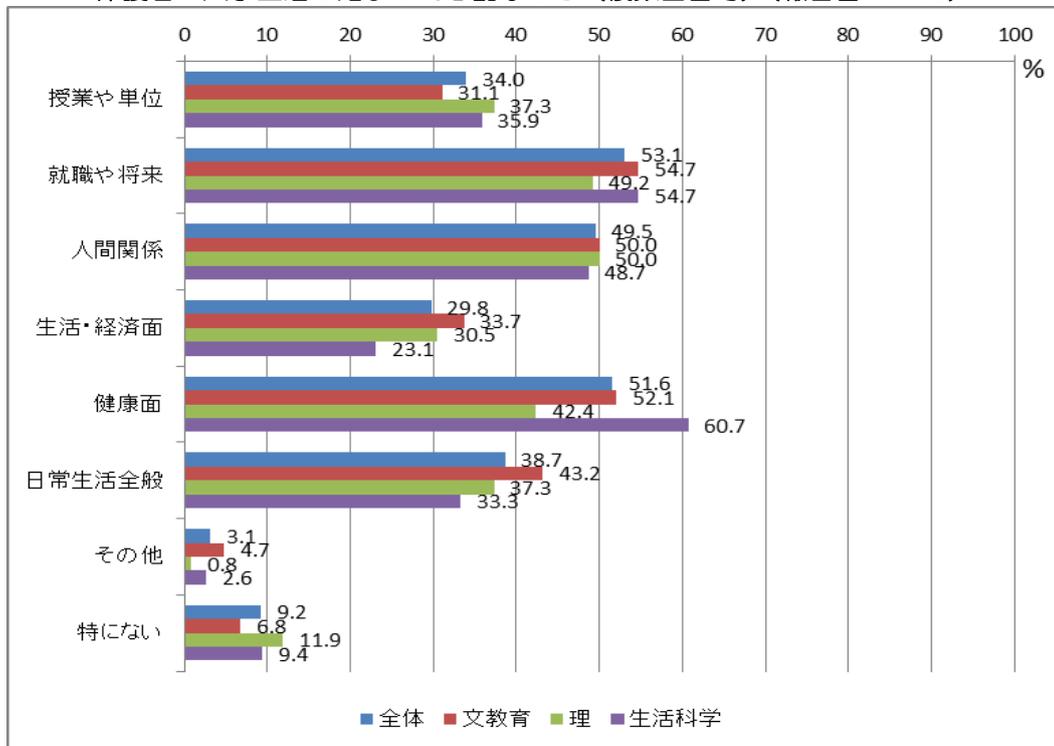
「授業や単位」「人間関係」では学部による大きな差はみられませんが、「就職や将来」に関しては、理学部が他学部よりも10ポイント以上低い結果となっています。

新入生：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）（報告書 P24）



同様に、新入生の保護者の回答結果をみていきましょう。

保護者：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）（報告書 P48）



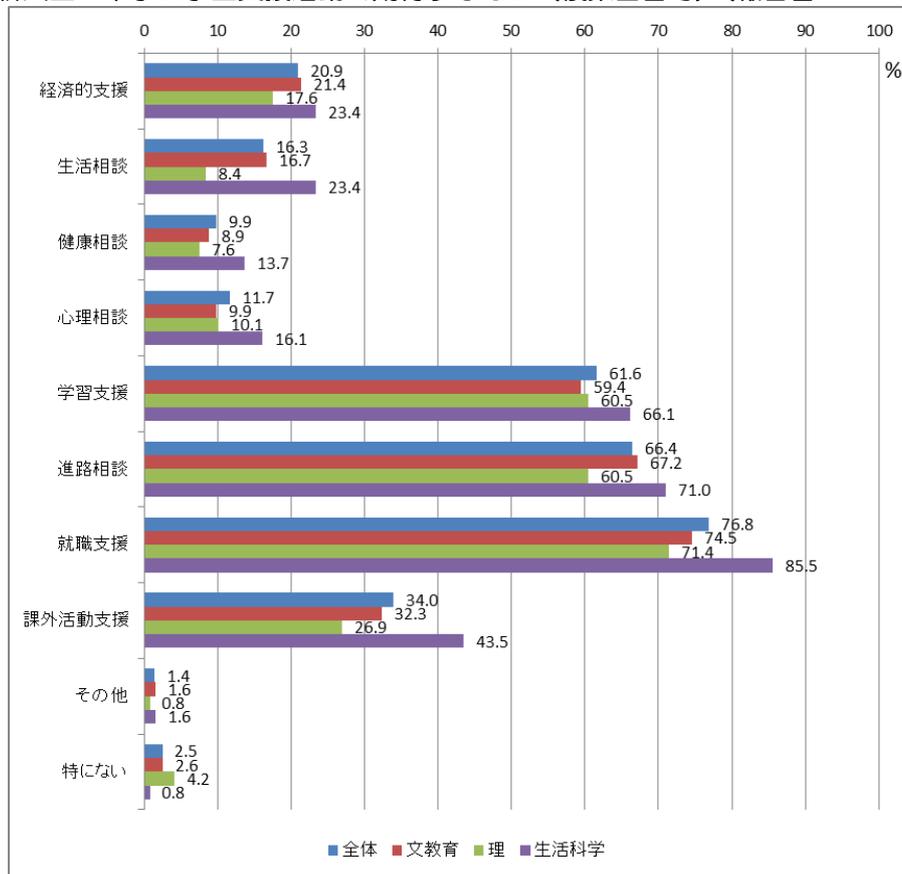
「就職や将来」が全体の53.1%と最も高く、昨年度同様、「健康面」「人間関係」がそれに続いています。「人間関係」では学部による差はみられませんが、「就職や将来」「健康面」に関しては、理学部の割合の低さが示されています。

5. 新入生・保護者ともに、就職支援に大きな期待

さいごに、本学の新入生や保護者が期待する学生支援活動についてみていきましょう。

まずは、新入生自身の回答結果をみていきましょう。

新入生：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）（報告書 P27）



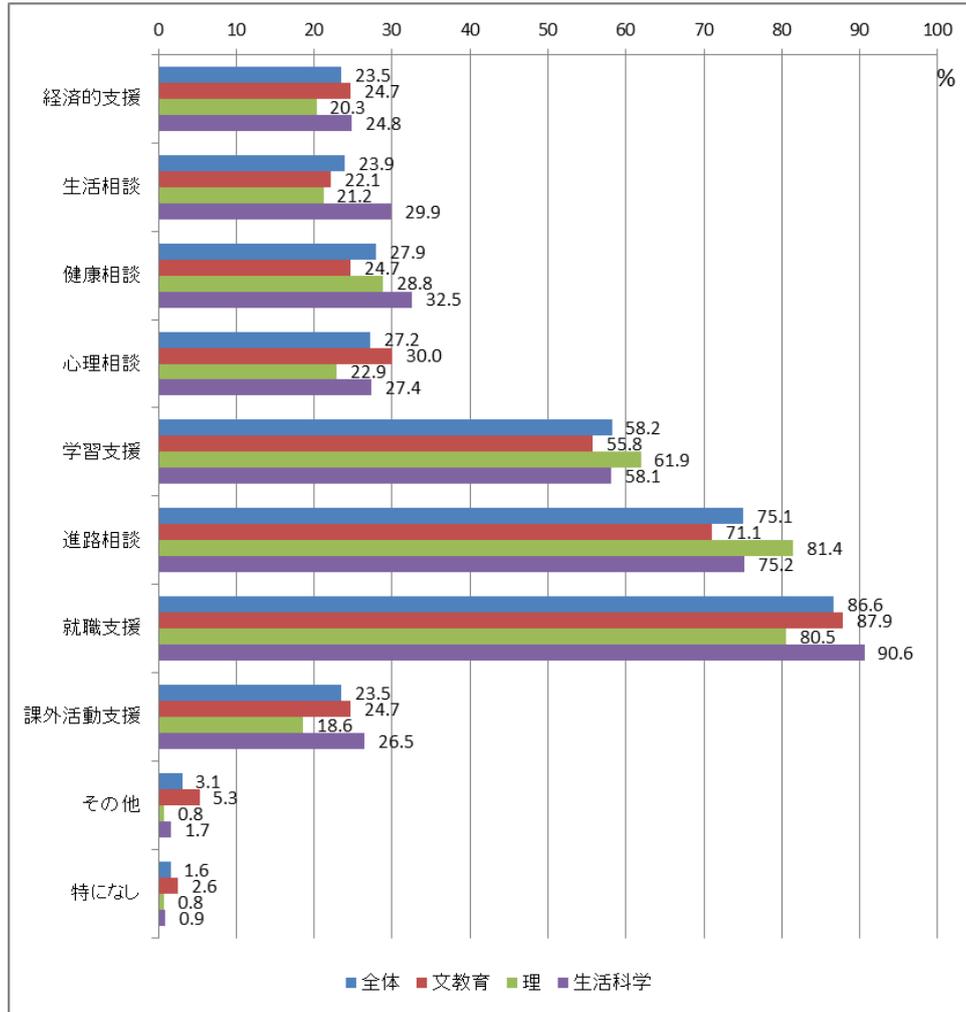
全体で見ると、「就職支援」が全体の76.8%と最も高く、「進路相談」「学習支援」が6割を超えてそれに続いています。これらの支援への期待は、昨年度は文教育学部が目立っていましたが、今年度は生活科学部が目立つ結果となりました。

同様に、新入生の保護者の回答結果をみていきましょう。

「就職支援」が全体の86.6%で最も高く、中でも、文教育学部や生活科学部ではおよそ9割に達しています。「進路相談」「学習支援」の割合は6割を超え、それに続いています。昨年度も同様の傾向がみられました。

理学部では「就職支援」の割合は80.5%と他学部より低いのですが、その一方で「進路相談」の割合は81.4%と他学部より高く、また、「就職支援」の割合よりもわずかですが高い結果となっています。

保護者：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）（報告書 P49）



次回は、
**「大学卒業後の進路展望
 と保護者の関与」**
 について、ご報告します。



「学生・キャリア支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPot から PDF形式でダウンロードできます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）。